

第3章 岡山市歯科保健基本計画(第2次)の基本方針

I 口腔機能の獲得、維持・向上

取組の方向性 A. 良好な口腔領域の成長発育

a. 乳幼児期から学齢期における口腔領域の健全な育成

口腔機能(口の働き)は自然に身につくものではなく、適切に離乳食を与えること等により育成されます。健全な口腔機能の育成に関して、保護者に対する啓発等に取り組む必要があります。

今までの市の取組

- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導
- 幼児健康診査受診時の保健指導
- 親子手帳・子育てのしおり等による啓発

今後の取組案

- ・ 口腔機能の健全な育成に関する情報を年数回、保育園・幼稚園・認定こども園に提供し、保護者向けの資料に掲載する。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、口腔機能の育成に関する情報を適切な時期に提供する。
- ・ ターゲットとなる年齢を絞り、口腔機能の健全な育成に関するリーフレット等を歯科医師会等と共に作成し、配付・指導する。

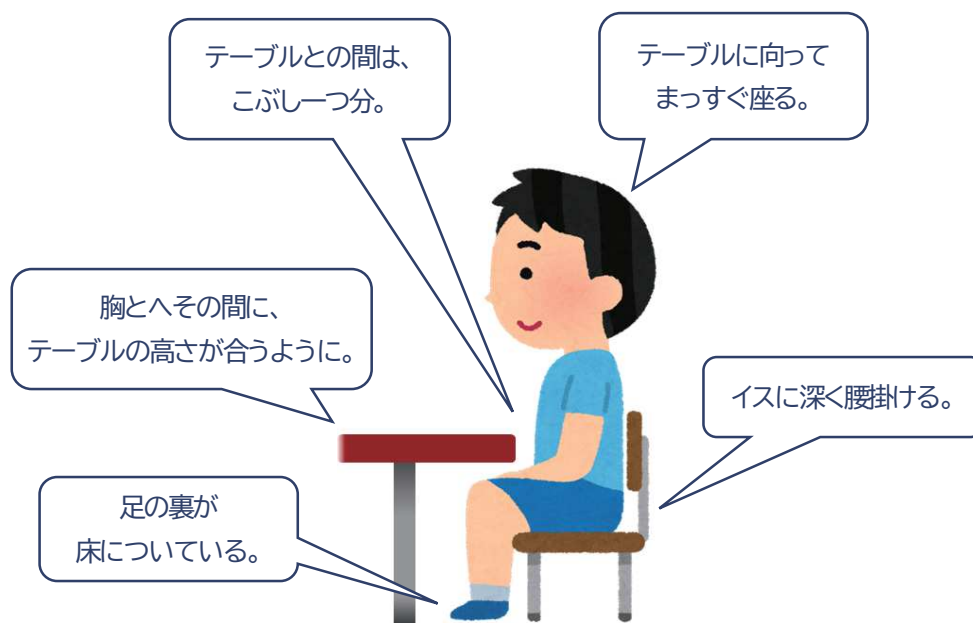
目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
歯科専門職(園医等)による口腔機能の育成に関する教育を行う園の割合の増加	幼稚園・ 保育園・ 認定こども園	歯科アンケート	49.3% (園医等)	70%	
歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	小学校	歯科アンケート	50.5% (学校歯科医等)	70%	

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
口腔機能の発達が気になる幼児の減少		
口唇がきちんと閉じており、よだれかけが不要な幼児の割合の増加	1歳6か月児	育児環境調査 ・1歳6か月児健康診査
口唇の閉鎖不全である「お口ぽかん」の幼児の割合の減少	三歳児	三歳児健康診査

<食べるときの姿勢>



*参考資料

内容	参照ページ
離乳食初期の食べさせ方	77 ページ
コップ・ストローの練習	78 ページ
食事の姿勢のポイント①②	79・80 ページ

取組の方向性 B. 歯科疾患の発生予防

a. 永久歯(成人)のむし歯予防対策

乳歯のむし歯ほど、永久歯のむし歯は減っていません。全国的にも成人期のむし歯の有病者率が減少していないことや、永久歯の抜歯の原因の多くをむし歯によるものが占めていること等から、永久歯のむし歯予防対策は、引き続き重要です。

一方で、フッ素塗布の実施割合が高まっていることや市販のフッ素洗口液が普及し始めたことなどから、集団の取組に加え、個人の取組にも重点を置きます。

今までの市の取組

- フッ素洗口
- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導

今後の取組案

- ・ 6歳臼歯(第一大臼歯)が生えてくる小学校1年生向けの、永久歯のむし歯予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
フッ素塗布を受けたことのある幼児の割合の増加	1歳6か月児	1歳6か月児健康診査	44.0%	65%	令和4年度
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.4%	90%	令和4年度
むし歯のない幼児の割合(処置済も含め)の増加	三歳児	三歳児健康診査	88.4%	95%	令和4年度
一人平均むし歯数(処置済も含め)の減少	12歳児 (中学校1年生)	学校保健概要調査	0.53本	0.2本	令和3年度

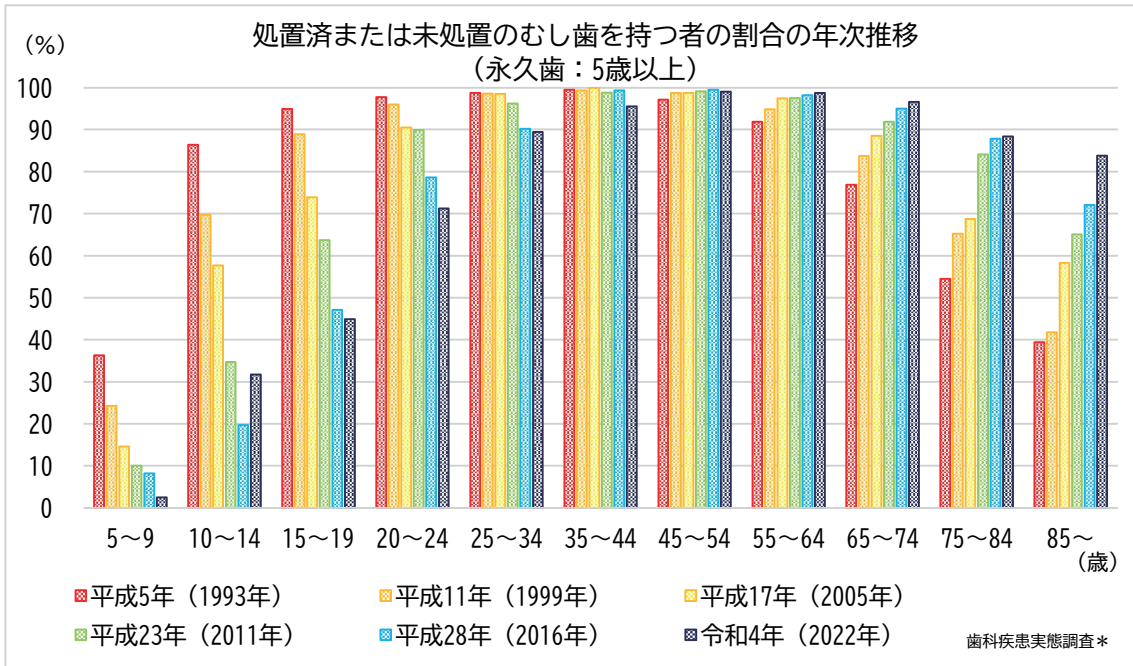
参考項目

項目	対象者	予定の調査等
家庭でフッ素洗口を実施している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート
高濃度(1,400~1,500ppm)フッ素入り歯磨き剤を使用している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート

*参考資料

内容	参照ページ
科学的根拠に基づいたむし歯予防方法	82ページ
家庭で行うフッ素洗口	82ページ
フッ素入り歯磨き剤の使用法	83ページ

<むし歯を経験したことのある人の割合>

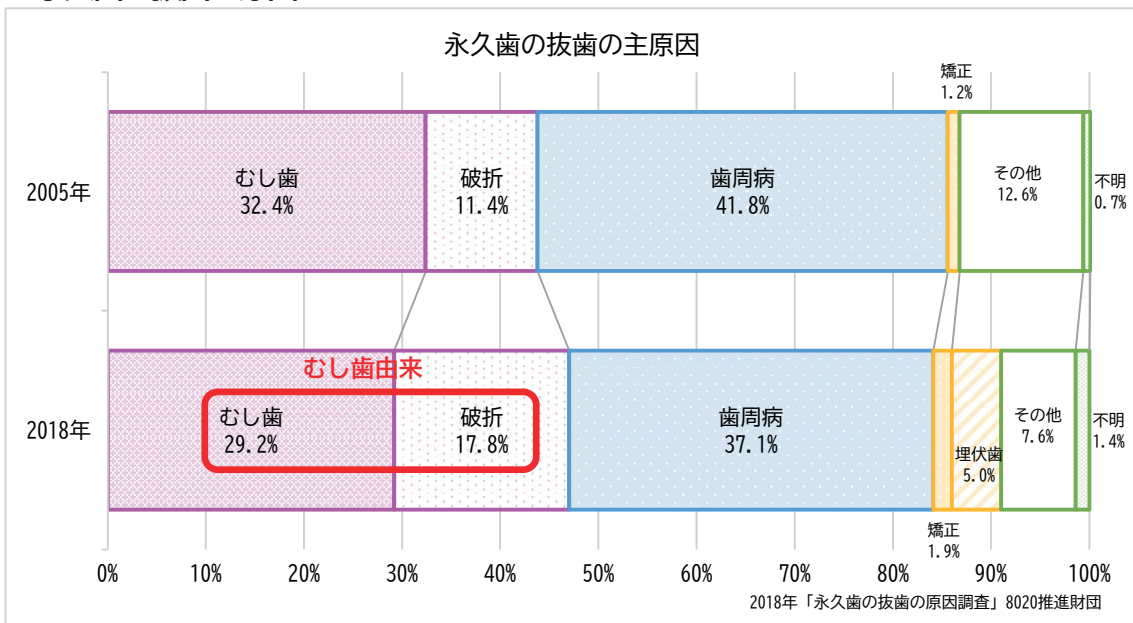


5歳以上10歳未満では処置済または未処置のむし歯を持つ者の割合は3%を下まわったが、25歳以上では80%以上と高かった。

過去の調査と比較すると、5歳以上35歳未満では減少傾向を示していたが、55歳以上では増加傾向にあった。

*歯科疾患実態調査は、我が国の歯科保健状況を把握し、今後の歯科保健医療対策の推進するための基礎資料を得るために、全国を対象として実施されるものです。

<永久歯の抜歯の原因>



「破折」は、むし歯が原因で、神経を抜いた歯に起きるため、「むし歯由来」と考えられる。

近年、「破折」が原因で抜歯される割合が増えているため、歯の神経の保存が重要である。

取組の方向性 B. 歯科疾患の発生予防

b. 学齢期からの歯周病予防対策

歯周病検診の結果から、40 歳代の歯周病の人が、増えていることがわかりました。歯周病菌に感染するのは、思春期以降です。学齢期の歯周病予防対策の取組が大切です。

今までの市の取組

- 学校保健安全委員会等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 中学生向けの歯周病予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	学校保健概要調査	20.4%	10%	令和3年度 歯・口腔の健康づくり プラン:10代における 歯肉の炎症所見
歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	中学校	歯科アンケート	25.5% (学校歯科医等)	50%	

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン:歯科検診の受診率
歯磨き時に出血を認める生徒の割合の減少	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン:10代における歯肉の炎症所見

*参考資料

内容	参照ページ
科学的根拠に基づいた歯周病予防方法	84ページ

取組の方向性 C. 歯科疾患の重症化予防

α. 成人・高齢者のむし歯対策

健康市民おかやま 21 (第 2 次) 最終評価アンケートでも 80 歳以上の約 3 割の人は 20 本以上の自分の歯があると答えており、高齢者でも多くの歯を有しています。加齢や歯周病によって露出した歯の根は、むし歯になりやすいので、おとなのむし歯対策が必要です。

今までの市の取組

- 歯周病検診／口腔機能健診
- 妊婦・パートナー歯科健康診査受診時の保健指導
- 健康教育等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 健康教育等の機会を利用し、おとなのむし歯対策に関する知識を普及する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
未処置歯を有する者の割合の減少	健診受診者	歯周病検診・ 口腔機能健診 (国保受診勧奨者 以外)	29.5%	20%	平成 30 年度 ～令和 4 年度 歯・口腔の健康づくり プラン:20 歳以上の 未処置歯保有者
フッ素洗口を実施している者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	健康市民おかやま 21 アンケート	16.3%	50%	
過去 1 年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	健康市民おかやま 21 アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくり プラン:歯科検診の受 診率

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
高濃度 (1,400~1,500ppm) フッ素入り 歯磨き剤を使用している者の割合の増加	一般 (20 歳以上)	健康市民おかやま 21 アンケート

*参考資料

内容	参照ページ
科学的根拠に基づいたむし歯予防方法	82 ページ
家庭で行うフッ素洗口	82 ページ
フッ素入り歯磨き剤の使用方法	83 ページ

取組の方向性 C. 歯科疾患の重症化予防

b. 成人・高齢者の歯周病対策

国民健康保険加入者の歯科医療に関するデータから、歯周病で治療を受けている人が増えていることがわかりました。「歯周病」と診断を受ける人が増え始めるのは 40 歳前後です。成人期は、定期的な予防処置に加え、必要に応じた早期治療が必要です。

また、「80 歳になっても 20 本以上自分の歯を保とう」という「8020 運動」が浸透し、歯を大切にすることが高まったことで、高齢になっても歯の数が保たれるようになっています。歯の数を保つだけでなく、健康な歯を維持するために、生涯を通じて、歯ぐきの健康管理が必要です。

今までの市の取組

- 歯周病検診／口腔機能健診
- 妊婦・パートナー歯科健康診査受診時の保健指導
- 健康教育等の機会を活用した啓発
- 糖尿病リスク者 (HbA1c5.6%以上) への歯科検診の受診勧奨

今後の取組案

- ・ 事業所職員を対象に研修を行い、歯周病対策の必要性に関する啓発を行う。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、保護者向けの歯周病対策に関する情報を発信する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
歯周炎を有する者の割合の減少	健診受診者 (40・45歳)	歯周病検診 (国保受診勧奨者以外)	67.0%	25%	平成30年度～令和4年度 歯・口腔の健康づくり プラン:40歳代の歯周炎
歯間ブラシを使用している者の割合の増加	40歳代	健康市民おかやま 21アンケート	57.1%	70%	
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま 21アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくり プラン:歯科検診の受診率
歯科健康教育を実施している事業所の割合の増加	事業所	健康市民おかやま 21アンケート	10.3%	30%	

*参考資料

内容	参照ページ
科学的根拠に基づいた歯周病予防方法	84 ページ
歯間ブラシの使い方	84 ページ

取組の方向性 D. 口腔機能の悪化への対応

α. 成人・高齢者の口腔機能の維持・向上

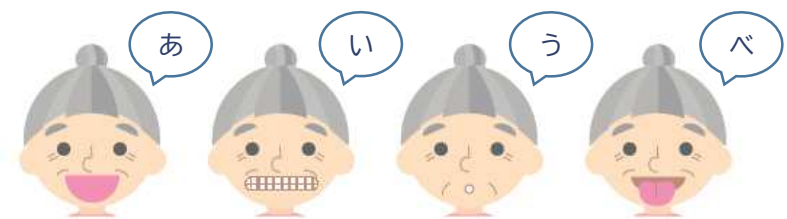
65～69 歳の約 4 割の人が、口腔機能が低下しています。生涯を通じて、食事や会話を楽しむためには、40～50 歳代からの口腔機能の維持・向上に関する対策が重要です。

今までの市の取組

- 口腔機能健診、65 歳市民への個別通知による受診勧奨
- 介護予防教室
- フレイルチェック
- 「あっ晴れ!もも太郎体操」の普及

今後の取組案

- ・ 健康教育等の機会を利用し、口腔機能の維持・向上に関する知識を普及する。
- ・ 通所介護事業所職員等に対し、口の体操や食事の形態等、口腔機能の維持の重要性に関する情報提供を行う。



目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17 年度)	備考
現在歯数が 24 本以上の者の割合の増加	60 歳 (55～64 歳)	健康市民おかやま 21 アンケート	80.4%	95%	歯・口腔の健康づくり プラン:60 歳で 24 歯以上の保有者
現在歯数が 20 本以上の者の割合の増加	80 歳 (75～84 歳)	健康市民おかやま 21 アンケート	63.9%	85%	歯・口腔の健康づくり プラン:80 歳で 20 歯以上の保有者
口の体操を実施している者の割合の増加	50 歳 (45～54 歳)	健康市民おかやま 21 アンケート	3.9%	35%	口腔機能が低下して いる人の割合 (R4)
	80 歳 (75～84 歳)		16.5%	65%	
口腔機能が低下していない人の割合の増加	50 歳 (45～54 歳)	健康市民おかやま 21 アンケート	66.6%	85%	100-(100-現状値)/2
	80 歳 (75～84 歳)		35.7%	70%	

*参考資料

内容	参照ページ
お口の体操	81 ページ

Ⅱ 定期的に歯科検診や歯科医療を受けることが困難な人々(障害者(児)、要介護者等)への対応

取組の方向性

α. 障害者(児)、要介護者を受け入れる歯科医療機関の増加

障害者(児)・要介護者にとって、口の健康が全身の健康に及ぼす影響は、一般の人よりも大きいので、定期的に歯科受診ができるような取組が必要です。

今までの市の取組

- 歯科医療技術者養成事業による歯科専門職を対象にした研修の実施

今後の取組案

- ・ 発達障害者等、歯科治療を受けることが困難な方が受診できる歯科医療機関の情報を提供する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 1~2 介護認定 無	KDBシステム (後期高齢者)	50.1% 64.5%	介護度 による差 を無くす	令和4年度
障害者(児)を受け入れている歯科医療機関数の増加	歯科医療 機関	おかやま医療 情報ネット	97/461 施設 (知的 (中等度・軽度))	200 施設	令和5年8月31日 現在 現状値×2



取組の方向性

b. 在宅療養者への訪問診療等の充実

施設等に入所せず、在宅で生活する障害者(児)や要介護者をはじめ、近年話題になっている医療的ケア児の中には、歯科医療機関への受診が困難な方がおられます。在宅で生活していても、定期的に口腔ケアや歯科診療が受けられる環境づくりが必要です。

今までの市の取組

- 訪問看護師対象の研修会の実施

今後の取組案

- ・ 在宅療養者に関わるケアマネージャーやヘルパーに対して、歯科訪問診療等に関する研修や情報提供を行い、在宅療養者の適切な口腔ケアや歯科診療につなげる。
- ・ 在宅療養者に関わる専門職の集まりに、歯科専門職も積極的に参加するよう、関係機関に働きかける。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 3~5 介護認定 無	KDBシステム (後期高齢者)	56.0% 64.5%	介護度 による差 を無くす	令和4年度
歯科訪問診療を行う歯科医療機関数の増加	歯科医療 機関	おかやま医療 情報ネット	239/461 施設	300 施設	令和5年10月13日 現在 岡山市歯科保健基本 計画(第1次)



取組の方向性

c. 障害者(児)入所施設、要介護者入所施設職員の口腔ケアの知識と技術の向上

施設における歯科検診の実施率は増加しており、口腔ケアの重要性や必要性が浸透してきた結果と考えられます。今後は、歯科検診の結果を参考にして、個々の入所者の状況に応じた日常のケアを行うことができるようにする等、口腔ケアの質の向上が期待されます。

今までの市の取組

- 歯科保健推進事業による入所者の歯科検診と職員への助言

今後の取組案

- ・ 施設指導等の機会を利用し、口腔ケアの質の向上に関する情報を発信する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
年1回以上、歯科検診を実施している障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	92.9%	100%	岡山市歯科保健基本計画(第1次)
口腔ケアに関する研修を行っている障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	42.8%	100%	
年1回以上、歯科検診を実施している介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	60.9%	100%	岡山市歯科保健基本計画(第1次)
口腔ケアに関する研修を行っている介護保険施設の割合の増加	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	歯科アンケート	42.4%	100%	

Ⅲ 医療・各種サービスとの連携

取組の方向性

a. 多職種連携の推進

糖尿病患者における歯周病の悪化やがん治療時の口腔粘膜炎の発症等、口の状態と全身の状態はお互いに影響を及ぼし合っていることがわかっています。医科歯科連携、病診連携等をすすめるとともに、病気になってから慌てることのないように、日頃からの口の健康管理が大切です。

今までの市の取組

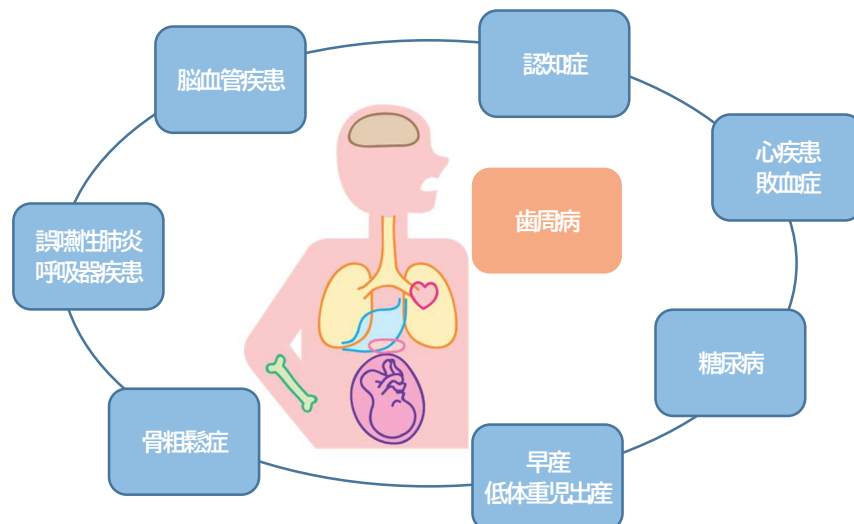
- 岡山県がん診療連携協議会への出席
- 糖尿病リスク者(HbA1c5.6%以上)への歯科検診の受診勧奨

今後の取組案

- ・ がん診療連携登録歯科医の紹介等、がん治療における歯科口腔保健の重要性を啓発する。(岡山市 HP)
- ・ がん治療や糖尿病治療を受ける患者を歯科受診につなげるため、医科歯科連携の深化を図る。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	糖尿病治療中	KDBシステム (国保)	49.8% (40歳代)	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくり プラン:歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	がん治療中	KDBシステム (国保)	61.4% (40歳代)	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくり プラン:歯科検診の受診率



取組の方向性

b. かかりつけ歯科医機能の周知と推進

岡山市の歯科医師数は、政令指定都市・特別区の中で4番目に多く、歯科医療機関にアクセスしやすい環境です。恵まれた歯科医療環境の中、約7割の幼児は、定期的なフッ素塗布を受けており、幼いうちにはかかりつけ歯科医を持って、口の健康管理をしていることが分かります。しかし、生活環境が大きく変わる20歳代から40歳代にかけては、定期的に歯科検診を受ける者は減少し、歯周病等の自覚症状が現れる50歳代から再び歯科を受診する傾向にあります。一度、歯の健康が損なわれると、治療をしても歯は決して元の状態には戻りません。口の健康管理は、どんな人にも必要なことであり、幼児期以降も定期的な歯科受診が続くように、かかりつけ歯科医機能についての周知と推進が必要です。

今までの市の取組

- 親子手帳・子育てのしおり等による啓発
- 妊婦・パートナー歯科健康診査時の保健指導
- 幼児健康診査受診時の保健指導
- 歯周病検診／口腔機能健診
- 健康教育等の機会を活用した啓発

今後の取組案

- ・ 6歳臼歯(第一大臼歯)が生えてくる小学校1年生向けの、永久歯のむし歯予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。
- ・ 中学生向けの歯周病予防についてのリーフレットの作成、配付等を行う。
- ・ 健康教育等の機会を利用し、おとなのむし歯対策に関する知識を普及する。
- ・ 事業所職員を対象に研修を行い、歯周病対策の必要性に関する啓発を行う。
- ・ 子育て情報アプリのプッシュ通知機能を活用し、保護者向けの歯周病対策に関する情報を発信する。
- ・ 健康教育等の機会を利用し、口腔機能の維持・向上に関する知識を普及する。

目標項目

目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)	備考
定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.4%	90%	令和4年度
過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま21アンケート	52.4%	95%	歯・口腔の健康づくりプラン:歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	40歳代	KDBシステム (国保)	45.8%	95%	令和4年度 歯・口腔の健康づくりプラン:歯科検診の受診率
過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護 1~2 3~5 介護認定 無	KDBシステム (後期高齢者)	50.1% 56.0% 64.5%	介護度 による差 を無くす	令和4年度
かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所の数の増加	歯科医療 機関	中国四国 厚生局	99/442 施設	200 施設	令和5年5月22日 現在 現状値×2

参考項目

項目	対象者	予定の調査等
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	歯科アンケート 歯・口腔の健康づくりプラン:歯科検診の受診率



目標項目一覧

		目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)		
口腔機能の獲得・維持・向上	良好な口腔領域の成長発育	乳幼児期から学齢期における口腔領域の健全な育成	歯科専門職(園医等)による口腔機能の育成に関する教育を行う園の割合の増加	幼稚園・保育園・認定こども園	歯科アンケート	49.3% (園医等)	70%	
			歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	小学校	歯科アンケート	50.5% (学校歯科医等)	70%	
	歯科疾患の発生予防	永久歯(成人)のむし歯予防対策	フッ素塗布を受けたことのある幼児の割合の増加	1歳6か月児	1歳6か月児健康診査	44.0%	65%	
			定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.4%	90%	
			むし歯のない幼児の割合(処置済も含め)の増加	三歳児	三歳児健康診査	88.4%	95%	
			一人平均むし歯数(処置済も含め)の減少	12歳児 (中学校1年生)	学校保健概要調査	0.53本	0.2本	
		学齢期からの歯周病予防対策	歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	学校保健概要調査	20.4%	10%	
			歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	中学校	歯科アンケート	25.5% (学校歯科医等)	50%	
	歯科疾患の重症化予防	成人・高齢者のむし歯対策	未処置歯を有する者の割合の減少	健診受診者	歯周病検診・口腔機能健診 (国保受診継続者以外)	29.5%	20%	
			フッ素洗口を実施している者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま21アンケート	16.3%	50%	
			過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま21アンケート	52.4%	95%	21指標
		成人・高齢者の歯周病対策	歯周炎を有する者の割合の減少	健診受診者 (40・45歳)	歯周病検診 (国保受診継続者以外)	67.0%	25%	21指標
			歯間ブラシを使用している者の割合の増加	40歳代	健康市民おかやま21アンケート	57.1%	70%	
			過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま21アンケート	52.4%	95%	21指標 再掲
			歯科健康教育を実施している事業所の割合の増加	事業所	健康市民おかやま21アンケート	10.3%	30%	
	口腔機能の悪化への対応	成人・高齢者の口腔機能の維持・向上	現在歯数が24本以上の者の割合の増加	60歳 (55~64歳)	健康市民おかやま21アンケート	80.4%	95%	
現在歯数が20本以上の者の割合の増加			80歳 (75~84歳)	健康市民おかやま21アンケート	63.9%	85%		
口の体操を実施している者の割合の増加			50歳 (45~54歳)	健康市民おかやま21アンケート	3.9%	35%		
			80歳 (75~84歳)		16.5%	65%		
口腔機能が低下していない人の割合の増加			50歳 (45~54歳)	健康市民おかやま21アンケート	66.6%	85%	21指標	
80歳 (75~84歳)	35.7%	70%						

	目標項目	対象者	出典	直近値	目標値 (R17年度)			
定期的に歯科検診や歯科医療を受けることが困難な人々(障害者(児)、要介護者等)への対応	歯科医療機関の増加 障害者(児)、 要介護者 を受け入れる	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 介護認定無	KDB システム (後期高齢者)	50.1% 64.5%	介護度 による 差を 無くす		
		障害者(児)を受け入れている 歯科医療機関数の増加	歯科医療機関	おかやま医療 情報ネット	97/461 施設 (知的 (中重度・軽度))	200 施設		
	在宅療養者の 訪問診療等の充実	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護3~5 介護認定無	KDB システム (後期高齢者)	56.0% 64.5%	介護度 による 差を 無くす		
		歯科訪問診療を行う歯科医療 機関数の増加	歯科医療機関	おかやま医療 情報ネット	239/461 施設	300 施設		
	口腔ケアの知識と技術の向上 障害者(児)入所施設 要介護者入所施設職員の	年1回以上、歯科検診を実施している障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	92.9%	100%		
		口腔ケアに関する研修を行っている障害者入所施設の割合の増加	障害者入所施設	歯科アンケート	42.8%	100%		
		年1回以上、歯科検診を実施している介護保険施設の割合の増加	特別養護老人 ホーム・介護 老人保健施設	歯科アンケート	60.9%	100%		
		口腔ケアに関する研修を行っている介護保険施設の割合の増加	特別養護老人 ホーム・介護 老人保健施設	歯科アンケート	42.4%	100%		
	医療・各種サービスとの連携	多職種連携の 推進	過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	糖尿病治療中	KDB システム (国保)	49.8% (40歳代)	95%	
			過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	がん治療中	KDB システム (国保)	61.4% (40歳代)	95%	
かかりつけ歯科医機能の 周知と推進		定期的にフッ素塗布を受けている幼児の割合の増加	三歳児	三歳児健康診査	68.4%	90%	再掲	
		過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加	一般 (20歳以上)	健康市民おかやま 21 アンケート	52.4%	95%	21 指標 再掲	
		過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	40歳代	KDB システム (国保)	45.8%	95%		
		過去1年間に歯科受診した者の割合の増加	80歳のうち 要介護1~2 要介護3~5 介護認定無	KDB システム (後期高齢者)	50.1% 56.0% 64.5%	介護度 による 差を 無くす	再掲	
		かかりつけ歯科医機能強化型 歯科診療所の数の増加	歯科医療機関	中国四国厚生局	99/442 施設	200 施設		

21 指標：健康市民おかやま21（第3次）の指標